

## art 諸橋近代美術館

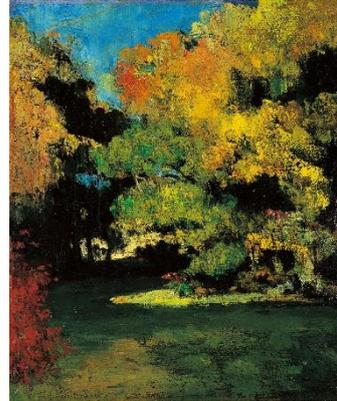
### 小企画展「若きセザンヌの挑戦」

会期:2020年9月19日(土)~11月29日(日)

ポール・セザンヌ(1839-1906)の作品を思い浮かべる時、多くの人は「林檎」や「サント=ヴィクトワール山」を最初にイメージすると思います。今や世界中で愛され、日本でも高い人気を誇るセザンヌですが、彼の作品が評価され、その名が一躍世に知れ渡ったのは50代の頃でした。では、有名になる前の若き日のセザンヌはどのような人物で、どのような絵を描いていたのか…。諸橋近代美術館では9月19日(土)より、セザンヌの初期の画業にスポットライトを当てた小企画展「若きセザンヌの挑戦」を開催しています。本展ではセザンヌの若かりし日の挫折と挑戦、戸外制作への関心に渡る自然への眼差しの変遷をご紹介します。

1839年、南仏エクス=アン=プロヴァンスで生まれたセザンヌは幼い頃から絵と詩を愛する少年でした。画家を夢見ていたセザンヌは22歳で念願のパリを訪れ、様々な絵画と出会います。地方暮らしでの限られた中で絵画を学んだセザンヌにとって、芸術の中心地で目にした美術界は新鮮かつ感動的なものでした。サロンでは落選を重ね、国立美術学校の入試にも落ち続けますが、意欲的に制作に取り組みます。また画塾アカデミー・シュイスでは絵画修練に励み、そこでカミーユ・ピサロ(1830-1903)やアルマン・ギヨマン(1841-1927)といった新たな芸術を目指す画家たちとも親交を結んでいき、自身の制作活動を研鑽していきました。

さて、それまで室内での制作を中心にしていたセザンヌですが、親友のエミール・ゾラの誘いもあり徐々に戸外



ポール・セザンヌ  
《林間の空地》

1867年  
油彩、カンヴァス  
諸橋近代美術館蔵

へと関心を示していきます。《林間の空地》はその現れとも言えるでしょう。一方で幾何学的な色面で画面を構成する描写といった、我々が知るセザンヌの風景画はここでは見られません。本作ではギュスターヴ・クールベ(1819-1877)の作品から做ったとされるパレットナイフを使った厚塗りが施され、またバルビゾン派の画家たちが好んだ自然光による色の変化の表現を念頭に置いて描かれています。いずれも当時のフランス美術界に新たな芸術潮流を起こした画家たちの表現方法を做しつつ、戸外制作に挑戦している若きセザンヌの姿勢がうかがえます。

マティスやピカソから「私たちの父」「唯一無二の師」とも呼ばれ、20世紀の多くの芸術家たちの着想源、また新たな絵画表現の先駆的存在となった「近代絵画の父」と称されるセザンヌですが、我々が知らなかった彼の画業を目の当たりにすることでしょう。普段ではあまり注目されない若き日のセザンヌの魅力をぜひ本展でご覧ください。

(学芸員 齋藤まりこ)

お問い合わせ TEL.0241-37-1088

## 2020年度秋季 実用フランス語技能検定試験

従来の実施級に加えて、1級を実施いたします。

■実施級 1級、準1級、2級、準2級、3級、4級、5級

■実施日程 1次試験(1・準1・2・準2・3・4・5級) 2020年11月15日(日)

2次試験(1・準1級・2級・準2級の1次合格者対象) 2021年1月24日(日)

■受付期間 願書郵送によるお申込:9月15日(日)~10月14日(水)※消印有効

インターネットでのお申込:9月15日(日)~10月21日(水)23:59まで

■福島会場 福島学院大学 福島駅前キャンパス

公益財団法人フランス語教育振興協会



## 私のフランス語日記 Mon journal français

### Ma memoire de l'odeur

J'ai parlé avec une amie du parfum l'autre jour. Je me parfume à l'eau de Cologne à l'orange fabriqué au Japon maintenant. On peut en mettre tous les jours, une petite quantité suffit.

Il y a quatre catégories de parfum. Il y a une différence de densité et de longueur.

- 1, Le parfum
- 2, L'eau de Parfum
- 3, L'eau de Toilette
- 4, L'eau de Cologne

J'utilisais plusieurs eaux de Cologne et eaux de toilettes mais je n'utilisais pas de parfum parce qu'il a une odeur forte et est très cher pour moi. Mais c'était l'époque de la bulle économique, en ce temps-là, <Poison de Dior> avait beaucoup de succès, pour tout le monde sans exception! Je ne suis pas un chien mais, j'ai suivi une femme au passage souterrain une fois; il y avait une très très forte odeur. C'était justement POISON!

J'ai pensé que c'était difficile d'utiliser correctement du parfum... Quand je vois la bouteille violette dans le magasin, je me souviens de cette odeur forte. Mais je me suis parfumée avec <Tendre Poison (la bouteille verte)> un moment. J'ai suivi la mode par simple curiosité. C'était une odeur forte malgré que ce soit une eau de parfum.

### 私の香水の思い出

先日、友人と香水の話をした。現在、私は日本製のオレンジのオーデオロンを使用している。毎日使えるが、少量で足りている。

香水には4つのカテゴリーがある。濃度や持続時間の違いである。

1. パルファン
2. オードパルファン
3. オートトワレ
4. オーデオロン

私はオーデオロンやオードトワレを使ってきたが、パルファンは使わなかった。なぜなら、私にはにおいがきつく高価だから。しかしバブルの時期に、当時<ディオールのプワゾン>が非常に流行った。皆例外なくだった! 一度地下道で、犬ではないのだが、<プワゾン>がきつい女性の後をたどれたことがあった。とてもとても強い匂いだった。まさに毒だった!

私は香水を正しく使うのは難しいと思った... お店で紫色のボトルを見ると、あの強い匂いを思い出す。が、一時期<タンドゥルプワゾン(緑のボトル)>を使ったこ

Depuis, je ne me parfume plus avec les parfums de Dior...

Ensuite, <Ptisenbon de Givenchy > il y a eu la grand vogue au Japon. Ce n'était pas une odeur forte et il a été bien apprécié par les hommes aussi. Je pense que c'est pour les enfants finalement. Ce parfum ressemblait au parfum de la lessive sur les vêtements, les Japonais aiment bien ça, surtout les jeunes filles. Moi, je n'utilise pas ça. Mais je pouvais sentir cette odeur ici et là au Japon.

Et puis, j'ai essayé plusieurs eaux de toilettes, j'ai utilisé <Eau Parfumée au thé vert de BVLGARI> entre autres pendant longtemps. C'est adapté pour les Japonais parce que la base est le thé japonais.

C'est agréable de sentir ses parfums préférés au magasin, mais le défaut, c'est que c'est cher!

Mitsue Kanno



とがある。流行りに乗って好奇心からだった。オードパルファンでもきつい匂いだった。

以来、ディオールの香水は使ってない。

それから日本で<ジバンシーのプチサンボン>がとても流行った。きつい匂いではなく、男性受けもよかった。私はこれは子供向けの匂いだと思った。洗濯後の匂いは日本人、特に若い娘は好きである。私はこれは使わなかった。当時、あちこちでこのにおいを感じたので。

で、その後いろいろオードトワレを試した。中でも特に<ブルガリのオ・パフメ・オ・テ・ヴェール>は長い間使った。日本茶ベースのため日本人には使いやすかったのだ。

お店で好みの香りをかぐと嬉しい。が、欠点は高価なことだ!

(会話教室受講生 菅野光江)

次回は、佐藤敏雄さん、お願いします!

## ストラスブールの思い出 -カズミ先生のこと-

フランスの新学期は9月。その時期に合わせて渡仏したので10年前のこと。フランスの東部、ドイツとの国境の街・ストラスブールで半年間暮らした。なぜこの街だったか。

フランスの小説家 アルフォンス・ドーデに「最後の授業」という小作品がある。舞台はここアルザス地方。ドイツに攻めこまれ、占領された村は「明日からフランス語を使ってはならぬ」と言い渡された。村の教師ハメル先生は、村人たちも集まった教室で「フランス語による、これが最後の授業です」と言って始めたというあの短編。日本の教科書に載ったこともあるこの作品が、地元の人たちにほとんど知られていないのは意外だった。ドイツとフランスの2つの国を往き来した悲劇の街は、今はEUの主要機関のある欧州の中心都市となっている。

この街に、創立1538年(種子島に鉄砲が伝来したのは1543年)という歴史をもつ、ストラスブール大学がある。ここには、外国人のためのフランス語講座があり、秋学期入学が目的のひとつだった。

ストラスブール到着からの1週間はとても忙しかった。大学での手続き、クラス編成のための試験。移民局へ出向き滞在許可手続き、そのために必要な健康診断書、胸部レントゲン写真撮影、血液検査、医師による問診と、市内各処に点在するそれらの専門クリニックを、地図を頼りに移動しなければならなかった。そこで、街の詳細地図を TABAC(タバ)で購入。200ページ余りの厚い手帳型の地図帳は、通りの名前さえわかれば楽に検索できた。どんな小さな裏道にも全て名前がついているから、それが可能だった。次にトラム(路面電車)の定期券を購入した。この2つを手に入れることで、街歩きは格段に便利で、楽しかった。

さて、大学のこと。指定された日に行ってみると、クラスと教室番号、担当講師の下に、氏名と国籍が記載された表が貼り出されていた。講座は「文法」「読み書き」「聞く話す」で、各々



世界遺産「プチットフランス」の一面



大学前のバス停

専任講師が担当した。

開講初日は9月14日。この日の日記を見ると、くもり時々雨、最低気温10℃、最高気温16℃とあった。最初の授業の講師はマダム ネリー・カズミ。痩せて小柄なカズミ先生は、親戚の口やかましいおばさんに似ていた。黒板の前に立ち、自分は文法を教えること、テキストは使わない、辞書は必ず仏仏を使うこと、と幾分ゆっくり話すと、早速板書を始めた。すごい速さ。とても写しとれない。黒板の右端まで使うと、さっと左端に戻り、消してはまた書いてゆく。むろん説明しながら。カズミ先生は熱心で、とても厳しかった。毎回教室に入ってくると黒いカバンの中からはまずチョークを取り出し(チョークはどの教室にも用意されていない)、授業が終わるまでそれを手から離すことがない。

9月末頃になると日暮れは早く、すっかり寒くなる。カズミ先生は寒そうに手をこすり合わせながら、10月にならないと暖房が入らないから、コートや帽子は着けたまま授業を受けてもかまわないと言われた。私が持っていたホッカイロを差し上げると、とても喜ばれ、この中には何が入っているのかと不思議そうにしておられた。

マルシェ・ド・ノエル(クリスマス市)の灯りが街中を彩る頃、先生は来られなくなった。肺炎で入院されたと聞いた。そのままお会いすることなく帰国したが、どうしておられるかと、日本語の響きに似たお名前とチョークで荒れた先生の指を思い出して、懐かしむ。(会話教室受講生 中脇ゆき子)

## 久美子の歳時記

Jadore\_lesgâteau (10)



猛烈な暑さも通りすぎ、気がつけば朝夕涼しく、秋の到来ですね。日が短くなって寂しい気もいたしますが、何を食べても美味しいこの季節。香り高いお茶と焼き菓子で秋の夜長を楽しみましょう。

### <Florentins フロランタン>

フロランタン?名前がぴんとこなくても、写真を見て頂ければ、ああ、これね!と思い当たる方も多いことと思います。クッキー生地にかaramelizeされたアーモンドスライスが乗った焼き菓子。サクサクしたクッキーとカリッと香ばしいナッツの食感と甘さが贅沢で、私も大好きなお菓子です。フロランタンとは仏語で、「フィレンツェの」という意味で、アーモンドの

産地であるイタリア発祥のお菓子とされています。実はあのマカロンも、イタリアのお菓子です。フィレンツェのカトリーヌ・ド・メディシスがフランスのアンリ2世に嫁ぐ時に菓子職人を連れて行き、フランスで広まった。との説もあります。今や世界中で愛されているこのお菓子、ぜひ、手作りの味にチャレンジしてみてくださいね。

(料理教室受講生 本田久美子)

#### ●材料 クッキー生地 18 cm×18 cm分

※美味しいクッキー生地なので何にでも使えます。

無塩バター100g 粉砂糖 70g

薄力粉 180g 卵黄 1個 塩ひとつまみ

#### ●作り方

1. 室温に戻したバターをボールに入れ、なめらかなるまでゴムべらで混ぜる。
2. 粉砂糖、塩を加えすり混ぜ、さらに卵黄も加えて混ぜる。
3. 粉を振るい入れ、切るように混ぜて黄色いそばる状にする。ボールに押し付け、生地をつぶす感じで、生地をまとめる。まとまった生地をラップで包み、平らにして冷蔵庫で2時間以上休ませる。

#### ●ヌガー部分の材料と作り方

グラニュー糖 40g 蜂蜜 20g 牛乳 10g  
バター10g スライスアーモンド 35g

1. オーブンを170℃に予熱する。クッキー生地を18cm×18cmに伸ばし、フォークで穴をあけて15分焼く。
2. ヌガーを作る。スライスアーモンド以外の材料を鍋に入れ、沸騰したらスライスアーモンドを加え、1分ぐらい加熱する。
3. 2のヌガーを、焼き終わったクッキー生地に手早く広げる。この時、ふちは5ミリぐらいヌガーを広げない。この生地を170℃で15分ぐらい焼く。
4. 焼きあがったら、まだ温かいうちに好みの大きさにカットする。冷めてしまうと崩れやすくなるので注意。しけりやすいので、乾燥剤を入れて保存する。

## 福島市街地に「鳥」の大群

2月初旬の夕方、福島市上町の県庁通りで思わぬ光景を目にした。今冬は比較的雪が少なく暖かな日和が続いていて、この日も午後5時過ぎて街を歩いていてもあまり寒さを感じなかった。稲荷神社に差し掛かった際、脇の駐車場向かいの料亭「萬清」側の電線を「あれは…」と見上げている人が私に声を掛けてきた。「何事」と私も見上げるとまだ空が薄明かり残る中、電線三本にびっしりと黒い鳥が止まっていた。群れて夕暮れに大挙して市街地にやって来るのはムクドリで、福島駅東広場などのケヤキに鈴なりに止まり、騒々しい鳴き声やフン害で迷惑な存在だが、電線の鳥はよく見るとカラスだった。それはまるでヒチコック監督の映画「鳥」を思い起させる光景だった。

1963年のこの映画は、女性作家ディム・ダフニ・デューモーリエ（フランス系のような名だがイギリス人）の同タイトル短編が原作。映画は弁護士役のロッド・テイラーとティッピー・ヘドレンが主役で、彼女が彼に会いにカリフォルニア湾の島へ出かけると、突然カモメの攻撃を受けてケガを負い、恐怖に襲われる。この出来事が発端となって、島内でカモメの大群が人々や家を攻撃。カラスやスズメまでも次々と襲い、ガラス窓に突き当たり屋根を壊すなどしてついに死者も出てしまい、街は恐怖に陥る一と言う生物パニック映画である。いかにもヒチコックらしい心理的な恐怖心を描いて、私も強烈な印象を受け、忘れられない映画の一本となった。

夕暮れ時の街中で一瞬「鳥」を連想したのは映画を思い出したからである。福島市でのカラスの棲みかには信夫山だったが、最近は夕方になると郊外から市街地へ三々五々飛来し、ビルの屋上などに集まる光景を目にする事が多くなった。それにしても、これだけの大群が電線に止まっている光景は見た事が無い。何かカラスに異変があったのか…とも考えたが、いつも見掛けるハイブトガラスやハシボソガラスと違い、ミヤマガラスと分かった。

ミヤマガラスは越冬のため10月ごろシベリアなど大陸から群れて飛来、3月ごろまでいて九州や本州西部が中心だった。しかし最近ではほぼ全国で見掛けるようになったという。クチボソガラスより一回り小さく、成鳥になると嘴の基部が白く見えるのが特徴だ。

性格はおおらかで、河川敷などで他のカラスと一緒に行動する事もある。開けた農耕地などに降り、食べるのは昆虫類や鳥類の卵、果実の種子など雑食性だ。樹上にコロニーを作り、一回に3~5個の卵を産む。群れるので見慣れない大群のカラスを見ると何か不気味な思いに駆られるのは仕方がないが、理由が分かると、白鳥の様に季節を知らせる“黒い冬の使者”とも言えよう。

日本には7種のカラスがいる。ミヤマガラスの他に最も多く見掛け好奇心が強く攻撃的なハシボソガラス、知性が高く学習能力もあるが農作物に害を与え農業害鳥になっているハシボソガラス、世界のカラス属の中では一番小柄で首から腹部の羽毛が白いコクマルガラス、ミヤマガラス同様に大陸から越冬のため飛来しカラス属では一番大きく人間の4歳児に相当する頭脳を持つと言われるワタリガラス、茶褐色の翼に白い斑点があり亜高山帯の針葉樹林に生息し警戒心が強いホシガラス、白黒の体に羽は碧色で長い尾が特徴の美しい姿に似合わず気が荒いとも言われるガチガラス（カササギ）である。名称は「〇〇カラス」ではなく「〇〇ガラス」と濁音にするのが正式名称という。

頭が良くゴミをあさり、時には繁殖期に人を襲う事もあって何かと迷惑なカラスだが、近くで見掛けるカラスが何なのか、時折気に掛けてみるのも一興だ。

菅野 輝栄（会員）



電線3本にびっしりと群れて止まるミヤマガラス



### art 喜多方市美術館「福島県立美術館移動美術館 世界の名作展」

会期：2020年10月18日（日） - 11月17日（火）

福島県立美術館は、1984(昭和59)年福島市に開館しました。国内外の美術品・資料あわせて約4,000点のコレクションは、貴重な文化財であり、福島県民共有の資産でもあります。このたびの展覧会では、コレクションの中から海外の作品を中心に約50点をご紹介します。ロダン、ムーアら世界的な巨匠の彫刻。ピサロ、ルノワール、ゴーギャンらフランスの印象派とその周辺の作家たちの作品。ピカソ、シャガール、ルオーら20世紀美術の巨匠たち。さらにはアメリカの写実的な絵画と、アメリカに渡って画家の道を歩んだ日本人作家たちの作品などです。喜多方市で開催する移動美術館は、1999年以来21年ぶりとなります。

